

成績伸長別に見る生活習慣や意識の違い

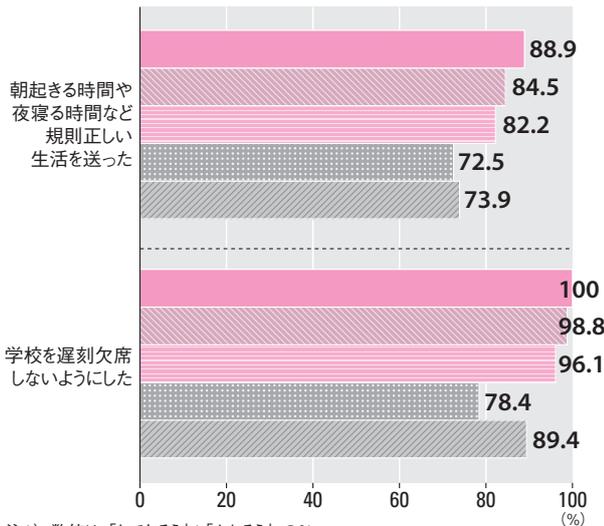
「中学1年生の学習と生活に関する調査」結果から

中学1年生で成績が伸びた層と、伸び悩んだ層には、家庭での様子や意識の違いはあるのだろうか。前号に続き、中学1年生の意識調査の中でも特に生活・意識面に焦点を当て、両者の特徴を分析する。

1 成績が伸びた生徒のほぼ全員が遅刻欠席をしないように意識している

生活規律

■ 中上位から最上位 ■ 中位から上位 ■ 常に中位
■ 上位から下位 ■ 中位から下位



注1) 数値は「とてもそう」+「まあそう」の%
出典／Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

生活の様子を見ると、成績が伸びた層は「学校を遅刻欠席しないようにした」の肯定率がほぼ100%で、きちんと学校に通おうとしている様子がうかがえる。また、「朝起きる時間や夜寝る時間など規則正しい生活を送った」の肯定率も高い。生活のリズムをきちんとつかむことが、学習面にも良い影響を与えるのだろう。

「中学1年生の学習と生活に関する調査」概要

今回は、特に生徒の学力変化に着目しデータを加工・分析している。成績に関して尋ねた項目（「5」が上の方、「4」が真ん中より上の方、「3」が真ん中くらい、「2」が真ん中より下の方、「1」が下の方）を活用し、生徒を分類。中学1年生1学期の成績から1年生終了時まで、中位から上位に変動した生徒を「伸びた生徒」、上位・中位から下位に落ち込んだ生徒を「伸び悩んだ生徒」として、その特徴を追いかけた。「真ん中より下の方・下の方」から「上の方・真ん中より上の方」に移動した生徒もいたが、サンプル数が少ないため今回の分析からは除外している。

成績の変動ごとにその構成比率を見てみると、成績が伸びた生徒、伸び悩んだ生徒はそれぞれ約2割、あまり変動しなかった生徒は約6割であった。

中学1年生1学期から1年生終了時までの成績変動		
伸びた生徒	中上位（真ん中より上の方）→最上位（上の方）	81人
	中位（真ん中くらい）→上位（上の方・真ん中より上の方）	84人
あまり変動しなかった生徒	中位（真ん中くらい）→中位（真ん中くらい）	517人
伸び悩んだ生徒	上位（上の方・真ん中より上の方）→下位（真ん中より下の方・下の方）	51人
	中位（真ん中くらい）→下位（真ん中より下の方・下の方）	142人

■ 調査主体／Benesse教育研究開発センター

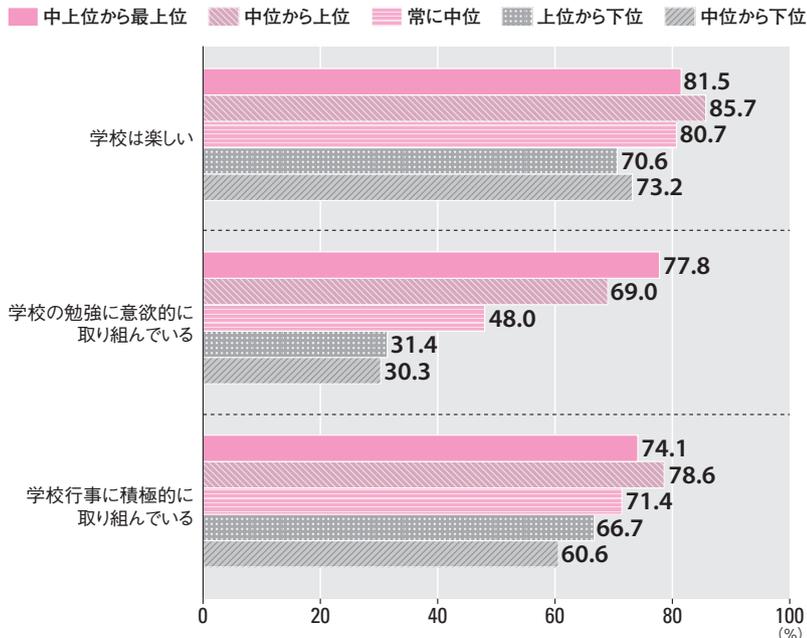
■ 調査期間／2012年7月

■ 調査対象・内容／全国約3000人の中学2年生とその保護者を対象に、中学校入学後のギャップや学習習慣、日々の過ごし方などについて尋ねた。有効回答数は875人

中学1年生の良さを伸ばす

2 学習以外に、学校行事などにも積極的な成績伸長層

学校生活に対する意欲



注1) 数値は「とてもそう」+「まあそう」の%
 出典／ Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

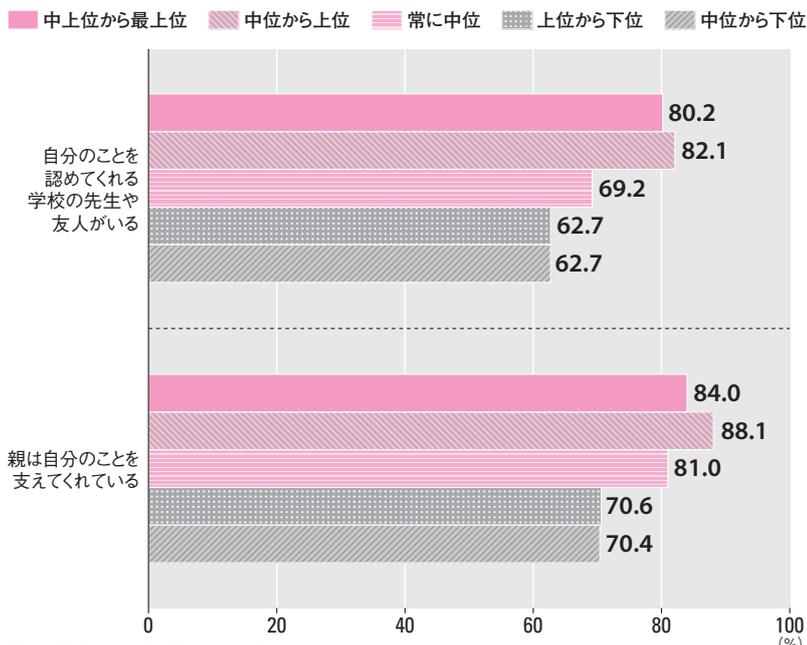
学校生活に対する意欲を、成績の伸び別に分析した。

成績が伸びた層では、「学校の勉強に意欲的に取り組んでいる」と答えた生徒が多く、学習意欲が成績に反映されているといえる。更に、「学校は楽しい」「学校行事に積極的に取り組んでいる」の比率も高い。

勉強だけでなく、学校行事などにも意欲的に取り組むことが、成績の伸びに関係しているといえそうだ。

3 成績が伸びた生徒は、他者に認められ、支えられていると感じている

先生や友人、保護者との関係



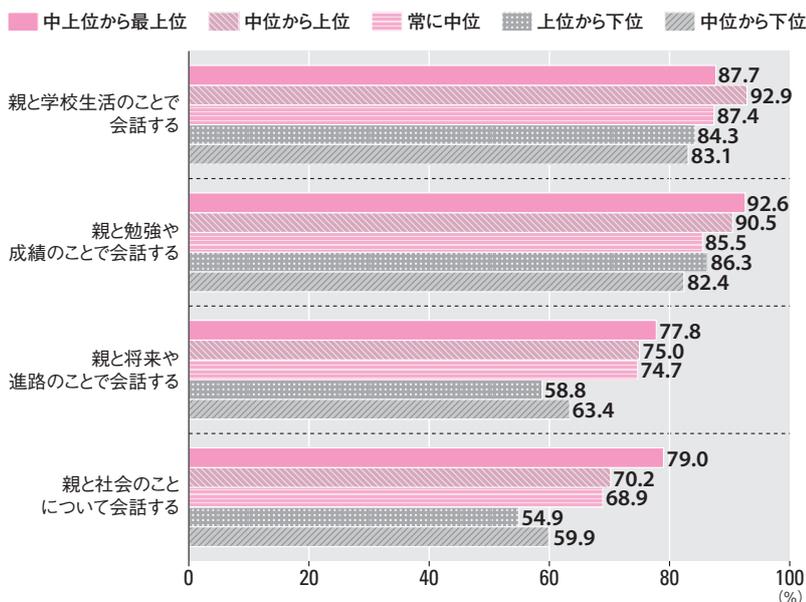
注1) 数値は「とてもそう」+「まあそう」の%
 出典／ Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

学校の先生や友人、保護者との関係において、成績との関連を見ていくと、成績が伸びた層では、「自分のことを認めてくれる学校の先生や友人がいる」「親は自分のことを支えてくれている」の比率が高く、他者からの承認を感じている様子が見られる。

学力向上を図るためには、その前提として、生徒が安心して学習に向かうことが出来る学校の先生や友人、保護者の存在が重要といえそうだ。

4 成績が伸びた生徒は 進路や社会のことについて保護者と話す

保護者とのコミュニケーション



注1) 数値は「とてもそう」+「まあそう」の%
出典／Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

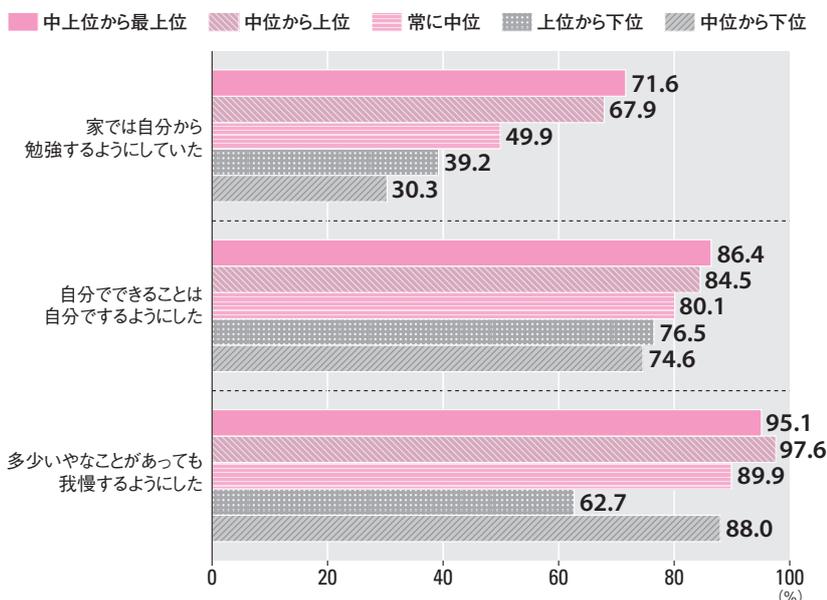
保護者とのコミュニケーションは、成績にどのように影響するのだろうか。

成績が伸びた生徒は、成績が伸び悩んだ生徒に比べて、「学校生活のことで会話する」「勉強や成績のことで会話する」「将来や進路のことで会話する」「社会のことについて会話する」の比率が高い。特に、将来や進路、社会のことに関する話題は、伸びた層と伸び悩んだ層とで、20ポイントほどの差がある。

保護者との会話の内容も、成績に影響しているといえる。

5 自主的、かつ粘り強く物事に取り組む傾向は 成績が伸びた層に見られる

日常生活における心掛け



注1) 数値は「とてもそう」+「まあそう」の%
出典／Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

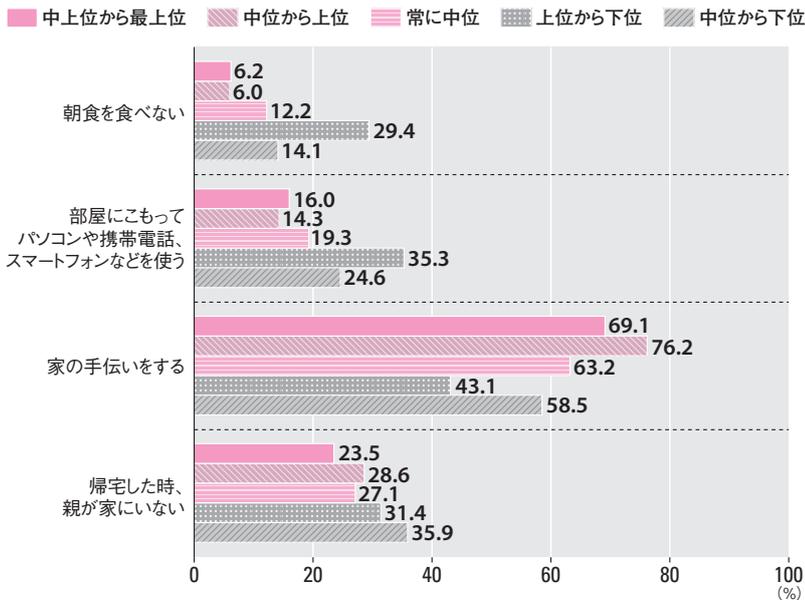
普段の生活における意識や姿勢を見たところ、成績が伸びた生徒で「家では自分から勉強するようにしていた」「自分でできることは自分でするようにした」の比率が高い。学習だけでなく、何でも自主的に取り組む姿勢があるようだ。

「多少いやなことがあっても我慢するようにした」の項目では、成績が伸びた生徒で若干ながら比率が高い。ただ、成績が上位から下位に落ち込んだ層では、比率が極端に低くなっている。中学校生活への不適応が、学習面にも大きな影響を与えているのかもしれない。

中学1年生の良さを伸ばす

6 成績が大幅に落ち込んだ層の生徒は朝食を食べずに登校し、家族とのかかわりも薄い

家庭での過ごし方



注1) 数値は「ほぼ毎日」+「時々あった」の％
 出典／ Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

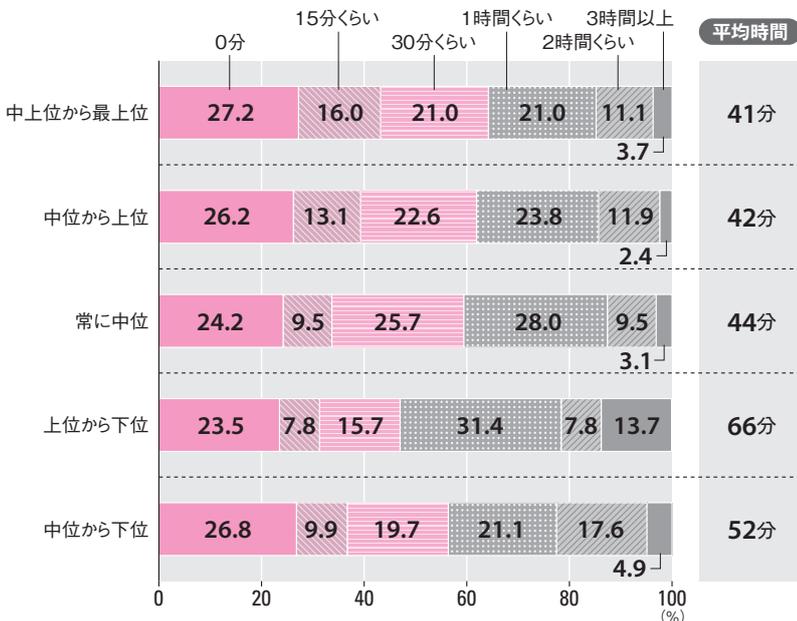
家庭での過ごし方に関する項目を見たところ、成績が伸び悩んだ生徒の回答で特徴が見られた。

特に、上位から下位に成績が落ち込んだ層の傾向として、「朝食を食べない」「部屋にこもってパソコンや携帯電話、スマートフォンなどを使う」が、他の層よりも比率が高かった。また、「家の手伝いをする」では、最も比率が低い。

成績が特に落ち込んだ層の生徒は、家族とあまりかかわらない様子がうかがえる。

7 成績が大幅に落ち込んだ層の約14%が1日3時間以上、ゲームに時間を費やしている

ゲームに費やす時間



出典／ Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

ゲームに費やす時間を成績の伸長別に見ていくと、その平均時間は、成績が伸びた層や成績が変わらなかった層では、約40分と大差がなかった。

ところが、成績が伸び悩んだ層では、ゲームに費やす時間が長い。特に、上位から下位に成績が落ち込んだ層では「3時間以上」と回答した生徒が13.7%、平均時間も66分と、5つの成績変動の区分の中で最も高くなっている。学習に向かえずに、成績が落ち込んでいる可能性がうかがえる。